

明政クラブ

原爆被爆対策

被爆体験者の救済

問 広島黒い雨訴訟を受けて被爆体験者の救済にどのように取り組んでいるのか。

答 広島高裁判決後、市議会や長崎県・県議会とともに長崎の被爆体験者の認定・救済については機会を捉えて国に要望している。
現在、国及び長崎県・市で広島、長崎の裁判の事実認定で用いられた書証の分析を行っており、引き続き国との協議を進めていくこととしている。本市では平成27年度から市議会と一体となって、長崎原子爆弾被爆者援護強化対策協議会を通じて被爆地域の拡大等を国に要望しており、被爆体験者救済のため、引き続き努力していきたい。



観光

樺島灯台公園の整備

問 野母崎地域へのさらなる集客のため、樺島灯台公園へ案内板や周辺道路を整備する考えはないか。

答 本公園までの経路は、集落の中を通ることから、道幅が狭く、ルートも分かりづらい状況である。ここ数年では、壊れた案内板の再設置、山頂トイレの改修などを行っているが、他の案内板も老朽化しているため、より目につく形で更新するとともに、分岐点に新たな案内板を設置していく。周辺道路は、旧樺島小学校の敷地を活用した一部拡幅について検討していきたい。本公園の環境整備を進め、野母崎地域への誘客と宿泊滞在型観光を充実させ、地域活性化を図っていく。



▲樺島灯台

公明党

平和

長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎を活用した平和発信

問 校舎や校内に点在する被爆遺構の発信力を高めるため現在の年次計画を前倒しし、早期の整備が必要ではないか。また、地域団体等が行う原爆死没者慰霊等事業への補助金を拡充する考えはないか。

答 早期の整備は重要と考えしており、学校や地域の関係団体の意見や長崎原爆遺跡保存・整備委員会における専門的な検討も踏まえ、少しでも前倒して実施できる整備がなれば協議していきたい。補助金の見直しについては、より活用しやすい補助金となるよう交付団体の意見も聞きながら検討したい。



▲長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎

教育

成年年齢引き下げに伴う対応

問 民法の改正で成年年齢が18歳に引き下げられたが、本市における今後の成人式の在り方について伺いたい。

答 市民意識調査や教育委員等への意見聴取を行った結果、成年年齢と成人式の年齢を必ずしも一致させる必要はないこと、就職活動や受験等の影響が少なく集まりやすいことなどから、対象年齢は20歳にすべきとの意見が多数を占めた。こうした意見を踏まえ、本市としても、多くの人が集まりやすく、20歳という年齢が一定の社会経験を積み、大人としての義務と責任の自覚が深まることなどが期待されることから、対象年齢は20歳、名称を「二十歳のつどい」とした上で成人の日を含む三連休に実施していくこととしている。



まちづくり

小菅修船場跡の環境整備

問 施設内での駐車スペースの確保やバス停の拡幅・名称変更などにより、来訪者のアクセス向上を図ってはどうか。

答 施設への一般車両の乗り入れは、接触事故や渋滞等の懸念から原則できないようにしているが、世界文化遺産登録当時から状況も変化していることから、来訪者用の駐車場についても検討を行い、関係者にも相談していきたい。また、バスベイの拡幅については、路線バスと観光バスのすみ分けなどの課題はあるが交通事業者とも協議し可能性を探っていきたい。また、来訪者に分かりやすいバス停の名称変更についても、交通事業者や関係者と協議していきたい。



▲小菅修船場跡